

1960年代における技術の発達 とプライバシー権概念の変容

技術史的考察

電子情報通信学会 技術と社会・倫理研究会 2005年2月18日

田中克範

<http://www.dendrocacalia.org/~common/>

プライバシー権の概念

■ 古典的プライバシー

「ひとりにしておいてもらう権利」

M. L. Ernst & A.U. Schwartz, *Privacy: the right to be let alone*, (1962).

■ 現代的（情報）プライバシー

自己情報コントロール権

A. F. Westin, *Privacy and freedom*, (1967).

A.R.Miller, *The assault on privacy: computers, data banks*, (1971).

プライバシーへの脅威

■ 人々が感じた脅威を物語る出版物

M.Brenton, *The privacy invaders*, (1964).

V.O.Packard, *The naked society*, (1964).

■ 米連邦政府の全国データセンター構想

■ 連邦政府が保有する個人情報を中心管理

■ 1961年に諮問

■ 1965年にセンター設立を勧告する報告書（ラッグルズ報告）

■ 1968年下院政府活動委員会の勧告によって構想は事実上の中断
議会・報道・国民の多数がプライバシー侵害のおそれから反対

1960年代の情報通信技術

■ 計算機

トランジスタを用いた汎用機の実用化と普及

1959年COBOLの標準化

1970年データベース関係モデルに関するE.F.Coddの論文

■ 通信

1950年代おわりから音声帯域モデムの商品化

1964年CCITT勧告V.21/V.23

1962年T1デジタル回線のサービス開始

性能と普及の両面における大きな変化

アメリカの法制度に現れた影響

- 公正信用報告法

Fair Credit Reporting Act, 1970

民間の信用調査機関から消費者のプライバシーを保護する

- プライバシー法

Privacy Act, 1974

連邦政府の機関によるプライバシー侵害を防止する

ACMの倫理綱領

- Professional Conduct in Information Processing, 1966

- D.B.Parkerの警告

“Rules of Ethics in Information Processing”
(*Communications of the ACM*, vol.11, 1968)